

特定非営利活動法人 地域と協同の研究センター

2012年度通常総会(第12回)

下記の通り、2012年度通常総会を開催します。

- 日時 2012年 7月7日(土) 総会 午前10時30分～12時15分
- 会場 JAあいちビル14階 大会議室
- 議題 第1号議案 2011年度事業報告と決算承認の件
 第2号議案 2012年度事業計画と予算決定の件
 第3号議案 理事・監事の選出及び顧問委嘱承認の件

＜会場への交通＞

名古屋市営地下鉄桜通線
 または名城線久屋大通駅4番出口から
 徒歩西へ約1分



記念シンポジウム(案)

「協同組合がよりよい社会を築く

～

」

○日時：2011年 7月7日(土) 午後1時30分～4時00分

地域と協同の研究センター総会終了後に行います。

○講演：これからの時代と協同組合 生源寺眞一氏

第1号議案 2011年度事業報告と決算承認の件

I 2011年度活動で目標としたこと

東日本大震災は、津波や火災での多数の死傷者だけでなく、原発の放射能汚染という未曾有の被害をもたらしました。そうした中で、改めて協同の力が必要とされ、協同組合に多くの期待が寄せられています。地域と協同の研究センターでは、このような協同組合に対する期待に対し、積極的にその役割を果たしていけるよう、2011年度は「4つの領域別での場であるパネル、研究フォーラム、地域別懇談会・つどいの場を重視し、身近な地域で参画できる場を広げ、新しく岐阜等で地域の交流の場としての懇談会の開催を探っていきます。またこうした日常の研究センター活動を広げる中で、会員の加入をもう一回り広げ」ることを目標に掲げて、取り組んできました。概ね目標に沿い、取り組みを進めることができました。その一方で、外に向けての発信が充分でなく、十分に会員が広がりませんでした。

特に、2011年度は、下記の4点を重点として取り組みました。

- ①東海のエリアで2012年国際協同組合年を迎えることができるよう、東海のエリアの協同の実践・協同を基礎とする組織や協同組合のつながりの場をつくり、理念・役割・あり方について深め合い、社会的発信の準備をすすめます。
- ②地域から時々地域と協同の研究センターに求められる役割を発揮する仕組みを探求していきます。岐阜地域や尾張地域での懇談会について考え合います。
- ③協同と協同組合を学び、協同と協同組合の組織を支える人づくりの場を探求し、その中で「協同組合大学(仮称)」を準備していきます。
- ④研究センターNEWS、情報クリップ、ホームページ、各報告集など地域と協同の発行物について見直し、求められる情報のあり方を探求していきます。

この4つの重点に対し、下記のような成果と課題が生まれました。

- ①「国際協同組合年と協同組合憲章学習会」を開催し、農業協同組合、大学生協等からの参加もあり、2012国際協同組合年を迎え、協同の取り組みを相談してきました。
- ②岐阜地域懇談会世話人会を3回開催し、岐阜地域での地域と協同の研究センターの取り組みを相談し、2012年度の計画を準備しました。今後、尾張地域での、会員のつながりをつくる場を設けることが課題です。
- ③「協同組合大学」について、名称を「協同の未来塾」として、その位置付け、準備の仕方について理事会で協議を重ね、塾の参加対象とする地域生協の参加で、企画相談の場を設け、準備を始める相談をしてきました。
- ④地域と協同の研究センターが発信する情報媒体について、会員参加で見直しをすすめるための相談の場を持つことができませんでした。その中で、TPP学習会や、「原発事故と私たちの暮らし」学習交流会はマスコミにも取り上げられ、研究センターの取り組みを広げることができました。

II 2011年度事業のまとめ

1. 協同組合運動の理念・役割・あり方の探究

2011年度は、生協の(未来の)あり方研究会では、執筆のための準備をすすめ、第11回総会記念シンポジウムや第8回東海交流フォーラムでは、東日本大震災から学ぶべきことを大切にしながら、協同組合の役割を考え合い、実践の交流を行ってきました。

第11回総会記念シンポジウム

(1) 生協の(未来の)あり方研究会

9回の定例研究会を重ね、研究者・実践家、それぞれの立論仮説を報告し合い、共同作業によって、執筆のための準備を進めてきました。2013年春に、その成果物を発刊できるようにしてきました。

(2) 総会記念シンポジウム

「大震災から4カ月、私たちができたこと 学んだこと これからめざすこと」をテーマに、講演を特定非営利活動法人レスキューストックヤードの代表理事栗田暢之氏に行っていただき、関わってJA愛知中央会、大学生協、

地域生協等から震災支援の取り組みを報告いただき、今後のくらしに生かしていきたい経験、今後の防災の取り組みでの教訓を得ることができました。（参加72名）

(3) 第8回東海交流フォーラム

第8回東海交流フォーラムの準備のために、3回の実行委員会を開催し、第7回までの振り返りから、より参加しやすいように、開催日を早め、2月11日に、テーマを「協同っていいかも」～くらしの中にこころのつながりを～として開催しました。第7回までは、午後、分散会としてテーマを区切り交流の場をつくってきましたが、今回はワールド・カフェという手法を活用し、参加者全員で協同について語り合い、生協の職員も多く参加する中で、たくさんの学びを生むことができました。そこで学び合ったことは、それぞれの地域・現場で生かしていきます。（参加104名）

講演・報告の内容と参加者は下記のようなものでした。

テーマ 「『協同っていいかも』～くらしの中にこころのつながりを」

開催日時：2012年2月11日（土）10時30分～15時30分 生協生活文化会館4階ホール

時間帯	内容	参加者数
午前の部	講演 「無縁社会」から「絆社会」へ NHK名古屋放送局報道番組ディレクター 野林 亮氏 報告 東海の地域での協同の実践 南医療生協の実践 南医療生協副理事長 中村 八重子氏	103
午後の部	「協同っていいかも」ワールド・カフェ ファシリテーター 九鬼産業株式会社代表取締役会長 九鬼紋七氏	87

《第8回東海交流フォーラムの感想から》

「無縁になれる人は、ちょっとした歯車のかけ違いということを知り、自分とかけはなれた話ではないことに気づきました。」
「ワールド・カフェに参加してみると、いろんな職種や団体との方と話ができて、あらためてテーマである『協同って何?』について気づくことができたと思います。」

第8回東海交流フォーラム 講演

(4) 国際協同組合年に向けて

「国際協同組合年と協同組合憲章学習会」を開催し、会員・生協の他、農業協同組合、大学生協等からも参加いただきました。そこでのつながりから、2012国際協同組合年を迎える準備をすすめてきました。

(5) 社会で課題になっていることに対して

理事会の運営では、毎回の理事会の冒頭、各理事から、考えたいこと、取り組んでいることを紹介し合い、その時々での社会的な課題に対し、問題意識を幅広い視点で共有するようになってきました。

またTPP交渉の参加への協議が始まり、緊急に、その内容を考え合う場を持ちました。

2. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

学びと気づきの場づくり支援では、各生協の要請に応じてきました。また地域と協同の研究センター主催で、第3期共同購入事業マイスターコース、第2期組合員理事ゼミナールを実施し、「協同の未来塾（協同組合大学）」を検討してきました。

(1) 各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

各生協の要請に応え、学びと気づきの場づくり支援に取り組んできました。

2011年度支援を実施した生協には、①コープあいち（エリアマネージャーゼミナール、センター長ゼミナール）②東海コープ事業連合（MDゼミナール）、③コープあおもり、④ならコープ、⑤社会福祉法人「協同福祉会」あすなら苑、⑥京都生協、⑦エフコープなどでの支所長や店長のゼミナール、自己発見塾等があります。

支援により職員の変化、事業実績での変化の報告があります。2012年度も引き続き支援要請があり、計画を相談してきました。

(2) 共同購入事業マイスターコースの開催

第3期「共同購入事業マイスターコース」を、東海の3生協、委託業者（トランコムDS株式会社、株式会社アシスト）、市民生活協同組合ならコープから26名の参加で開講しました。第1単元から第7単元まで、企画委員を中心に開講し、修了式では一人ひとりにマイスターバッジと修了証を、各生協理事長に出席いただき、手渡されました。

参加者の感想から

『この研修で自分自身が大きく変わった事は、「組合員さんとの接し方、見方の変化」が、一番大きいと感じています。今までは、マニュアルに沿っての行動しか考えず見ていた事も、「もう少し組合員さんの為に私に出来る事は無いのだろうか?」と考えるようになり、私が出来る精一杯を組合員さんに提案する事で、いつもと違う喜びを感じて頂いていると思う事が増えました。』

『これからが研修をいかしたスタートだと思います。組合員と一緒に、ともに考えあい、見つけあうことに価値を置き、見つけたことを実践して、調べ、またそこから気づき、学ぶというサイクルをしていくことがマイスターのあるべき姿なのだと思います。』

第3期マイスターコース修了式

第2期組合員理事ゼミナール修了式

(3) 組合員理事ゼミナールの開講

東海の3生協から、26名の組合員理事の皆様に参加いただき、開講しました。5回のゼミナールは、各回を準備した世話人がファシリテーターを務め運営しました。

参加者の感想から

『理事としての「役割」「姿勢」を学習させて頂き、最初抱いていた「不安」から「前向きに考える、行動を起こす」といった方向を示してくれたセミナーでした。』

『毎回とても勉強になりました。理事として考え方のベースができたような気がします。視野も広がったし、あいまいだったことが鮮明になったこともありました。』

(4) 協同の未来塾（協同組合大学）

2009年度に相談を始めた協同組合大学は、2010年度に引き続き、2011年度は理事会で検討を重ね、考え方を整理し、名称を「協同の未来塾」として2012年度に企画委員会を設け、参加の対象となる地域生協の担当役員にも参加いただき相談できるように準備してきました。2012年度は、その構想を形にするため、検討する委員会をつくり準備をすすめます。

3. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

4つのパネルは交流をさらにすすめることができ、地域での交流の場として岐阜地域での地域懇談会も開催できるようになりました。

(1) 4つの領域でのパネル

食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

野田農場で「そばを育てて食べよう！」と、種を植え、収穫し、台風の被害を受けながら、そば栽培とそば打ち体験に取り組みました。福井見学ツアーは、見学先の都合で中止としました。

日程	企画	内容
9月8日	そばの種まき	12名の参加で野田農場で行き、畝作りなど準備していただいて、育つことを願いながら種を撒きました。
11月29日	そば刈り	10名で体験しました。台風による庄内川の氾濫により、1メートル以上冠水してしまったそばですが、奇跡的に、そばは災害にもまけず生き残りました。
12月15日	そばの脱穀・粉牽き	野田農場でそばの脱穀、粉挽きを5名で体験しました。
12月23日	そば打ち	生協生活文化会館でそば打ちを20名で体験し、おいしくいただきました。 参加者の感想「水害でショックを受けたが、生きていてうれしい。農業は難しい。自分でするのは大変そうだ。」

環境（自然の環 人の輪）パネル

2011年度は、6回の世話人会を重ね、「東山の森に学ぶ」企画の開催と各会員、生協の環境活動について交流をしてきました。

日程	企画	内容
10月16日	東山の森に学ぶ	コープあいち組合員2組(4名)、コープみえ組合員5組(14名)、世話人7名、事務局3名の総勢28名で開催しました。 初めて、3生協の組合員に呼びかけ、フィールドワークに取り組みました。子供や親子の参加もあり、幸い天候にも恵まれ、秋の一日、自然観察と作業、動物園見学などで身近な環境との関わりについて考えることができました。 参加者の感想 「名古屋全域に森林が広がり、子供たちが自然と触れ合える環境になればと思いながら楽しく参加させていただきました。里山保全活動は、大変な作業だと感じました。自然を大切にしていかなければいけないと思いました。」

食と農・環境（自然の環 人の輪）パネル 合同

2011年度は、食と農、環境パネルの合同で7回の世話人会を重ね、内容の検討をすすめて、「原発事故と私たちの暮らし」をテーマに、学習交流会を2回開催しました。

日程	企画	内容
9月28日	第1回「原発事故と私たちの暮らし」	井関先生より「放射能・放射線と私たちの暮らし」、斎藤先生より「食品の放射線汚染とその現状」をテーマに講演を行っていただきました。 (参加者33名) 参加者の感想「放射能と放射線のちがいが少しですが理解できました。人工的に作り出された放射能があること、人工的に作る物質であることを知り、何か怖いものを感じました。」
2月 4日	第2回「原発事故と私たちの暮らし」	安齋育郎先生より「内部被曝と食品の放射能汚染 原発とエネルギー政策のあり方」(参加者132名)放射能・放射線、内部被曝などについて基礎的な内容のお話をいただきました。 参加者の感想「非常に勉強になりました。いろんな学習会に参加していますが、こんなに楽しいのははじめてです。」「『過度に恐れず、

		事態を侮らず、理性的に怖がる』これに尽きる。」「『福島』で食べないのではなく『実態』で動く!!など学びました。」
--	--	--

地域福祉を支える市民協同 パネル

2011年度は8回の世話人会を開催しました。

ニュースレターNO.2 (2011. 3. 26)、NO.3 (2011. 9. 9) を発行しました。

日程	企画	内容
4月14日	【世話人会】東日本大震災を市民協同の視点で考える	報告集作成にむけて自分のテーマを持ち寄り、自分が関わっていることから見てみる
6月30日	【世話人会】自分のテーマを持ち寄ろう!	世話人からレポート提出◇自主防災、子育て広場事業(恵方の家)
9月 9日	【世話人会】小木曾先生のレポート	《1. 市民協同による福祉 2. 市民協同の様々なレベル 3. 住民活動の意味を探る》ゼミスタイルで学ぶ
10月22日	【世話人会】森の里荘自治会活動実践と課題	レポート発表《三重県連「第2回・協同のあるまちづくりをすすめる委員会報告」》
12月24日	【世話人会】話題提供2件 南医療生協映画制作と書籍発行 ワーカーズコープについて	レポート発表《コープあいちコープひろばに関わって》
2月 4日	【世話人会】小木曾先生のゼミナール	DVD『春日住民福祉協議会—住民の知恵を生かした地域づくり—』

研究フォーラム職員の仕事を考える

2011年度は、12回の定例世話人会を重ね、2回の生協職員の仕事を語る会と、1回のコープあいち労働組合中央執行委員会との懇談会を実施してきました。また2013年度、生協職員の仕事を考えるため、組合員に向けてアンケートを実施する相談をすすめてきました。

日程	企画	内容
9月 4日	第5回生協職員の仕事を語る会 テーマ「地域担当として楽しいこと、困っていること」	共同購入地域担当の仕事に取り組んでみえる女性の定時職員のみなさん4名とグループリーダー1名に、コープぎふ、コープあいち、コープみえより参加いただき、生協職員の仕事について語り合っていました。(参加者 名) その中で出された「組合員はともに生協をつくっていく人」ということが印象深く、報告を作成する際は表題として紹介させていただきました。
1月29日	第6回生協職員の仕事を語る会 テーマ「私のくらしの中の生協商品！」	東海の3生協から、共同購入を愛用している4人の組合員さんに参加いただき、おしゃべりの中で、共同購入の価値や、職員の仕事についてみんなで考え合いました。 (参加者 名)
2月 4日	コープあいち労組中央執行委員会との懇談会	2010年度に実施した「地域担当の仕事に関するアンケート」の報告結果に関連して、コープあいち労働組合中央執行委員会のみなさんと懇談会を開催しました。

第6回生協職員の仕事を語る会 参加者の感想から
『本当に貴重な体験ができた日になりました。自分自身も、もっと生協が行っている活動・事業について、関心を持って、自分から参加して組合員さんに『え？そんな事してるんだ!』と気付いていただけるよう、日々学んでいきたいです。』

第5回生協職員の仕事を語る会

三河地域懇談会**三河地域懇談会**

三河地域懇談会では、第8回地域懇談会の相談を重ね、今年は西三河で開催することにして準備をして10月1, 2日に40名で開催できました。

基調講演Ⅰ 流域の森を守る取り組み 高橋 啓氏

基調講演Ⅱ 豊田市足助町の町並保存の取り組みと
五平餅でのまちおこし 天野博之氏

分科会

1. 森林を守る取り組み・環境を守る農漁業・コープの森づくり
2. とよた五平餅学会とものづくり・足助の町並保存
3. エネルギー問題と私たちの暮らし

三重のつどい

3月24日に、44名の参加で「きたるべき災害に備えて、私たちがなすべき事とは」をテーマに三重のつどいを開催しました。「巨大災害に備える」と題して三重大学大学院の川口淳先生に基調講演をしていただき、①高齢者にやさしいまちづくりへの提起（みえ医療福祉生協専務理事：北村行史さん）②コープみえの台風被災者へのお見舞い活動（コープみえ：富山耕治さん）③ボランティア支援センターからの活動報告（みえ災害ボランティア支援センター長：山本康史さん）の事例報告がありました。その後グループごとに意見交流を行いました。

岐阜地域懇談会

岐阜地域懇談会について、考えたいと思っている会員で世話人会を開催し、期待などアンケートをとって意見交換してきました。来年度に椈の湖農業小学校を見学する準備として、あぼ兄いと交流の場を持ち、コープ恵那店で大好評の恵那の郷土食『するめの麴づけ』を試食しました。

4. 会員による多様な研究センター活動の支援**ものづくりの思いを語る会支援**

ものづくりの思いを語る会を1回開催し、第8回東海交流フォーラムでも行ったワールド・カフェで、東日本大震災に関わって、今後のあり方に関わって、思いを出し合いました。

安心して暮らせるネットワークのつどいへの参加

コープあいちを中心に、3月4日（日）生協生活文化会館にて開催された「安心して暮らせるネットワークのつどい」に、準備から地域と協同の研究センターとして参加してきました。

文集「新しい日常へ～3・11後のくらしのあり方」を発行支援

会員からの提案があり、支援して文集「新しい日常へ～3・11後の位の在り方」を発行しました。

コープあいちの委員会支援

コープあいちの福祉に関する委員会支援の要請があり、受託しました。

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

地域と協同の研究センターにある蓄積した情報に関わって、研究センターが求められる役割を果たすことができるよう模索を続けてきました。

情報のあり方、ホームページの情報発信を具体化するために、構想をまとめ検討・具体化できる会員の参画等課題として残りました。今後も、研究センター発行物をより活用できるものに見直しをすすめてみましょう。

6. 研究センターの組織強化

会員のお誘いを広げ、会員を増やします。会員加入について、下記の目標を持ち、取り組んできました。

個人正会員50人、個人賛助会員20人、団体正会員3団体の増加を目標とし、パネルや地域懇談会・つどいなどの場の参加を広げ、会員の加入を広げるように努めてきましたが、広がらず課題として残りました。

6. 研究センターNEWS（ニュース各号の主な記事）

	特集	パネル発・地域発・会員発の発信
95号 10/4/25	「協同っていいかも」を指針に東日本大震災支援活動のなかで 専務理事 向井 忍	・東日本大震災への救援・復興支援と震災対策の取り組み状況 ・第7回東海交流フォーラム「協同っていいかも？」報告 5つの分散会の報告
96号 10/6/25	通常総会記念シンポジウム 開催にあたって、共有し合い、考えあ いたい視点について 向井忍	東日本大震災被災者支援 ボランティアの取組状況と課題 コープぎふ「おたがいさまひだ」ねこの手集会を訪ねて マイスターとしての仕事づくりー共同購入事業マイスターコース 第2期修了生に聞くー
97号 10/8/25	大切なものは何なのか～国のありかた とは何か、根本的に考え直す場として ～ 代表理事 川崎 直巳	通常総会記念シンポジウム“大震災から4カ月 私たちができた こと 学んだこと これからめざすこと” 現地生協の状況報告と生協間支援の報告・JAグループ愛知復興 支援対応について等
98号 10/10/25	未来を語る人材を～協同組合人の育 成をはかる Summer セミナー～ 生活協同組合連合会 大学生協東海事 業連合 専務理事 加藤 和弘	地域担当の仕事で楽しいこと 困っていること！ 第1回「原発事故と私たちの暮らし」連続学習交流会 そば体験種まきしました 京都生協 コープ祝園店「数値を動かす楽しさ発見塾」等
99号 10/12/25	私が「友愛と協同社会」を展望できな かったのは何故か 研究センター顧問 野原 敏雄	食と農パネル発 そば刈り、脱穀、粉挽きをしました！！ 第8回三河地域懇談会発 三河の地域から暮らしを考える 環境パネル発 「東山の森」を散策し、里山保全活動を体験して きました！！
100号 10/2/25	第100号記念 協同への決意 専務理事 向井 忍	会員の皆さんの「協同っていい かも」の思い特集 第2回「原発事故と私たちの暮らし」連続学習交流会 安齋育郎 氏講演の報告

Ⅲ 組織・機関運営のまとめ

1. 第11回通常総会を、2010年7月9日（土）に、生協生活文化会館で開催しました。

出席状況は、次の通りでした。

	出席者	実出席	書面表決	会員数
個人会員	174	58	116	232
団体会員	14	5	9	16
合計	188	63	125	248

第11回総会

各議案の採決結果は下表の通りでした。

過半数の賛成で、2010年度事業報告と決算承認の件（第1号議案）は承認され、2011年度事業計画と

予算決定の件（第2号議案）・第3号議案第二期中期目標の件も過半数の賛成で提案通り決定されました。

<議案毎の採決結果>

	議案	賛成	反対	保留
第1号議案	2010年度事業報告と決算承認の件	185	0	0
第2号議案	2011年度事業計画と予算決定の件	183	0	2
第3号議案	第二期中期目標の件	183	0	2

2. 理事会の開催

2010年度、下表の通り理事会を開催しました。

	回数	開催日	主な議題
10年度	第7回	11/5/28	1. 2011年度通常総会議案書について 2010年度事業報告と決算、2011年度事業計画と予算、第二期中期目標 2. 通常総会の運営について 3. 総会記念シンポジウムについて
2011年度	第1回	11/7/9	1. 2011年度の役員体制 2. 2011年度の理事会日程
	第2回	11/9/3	1. 第11回定期総会に関わって 第11回定期総会の振り返り、総会記念シンポジウムの振り返り 2. 2011年度計画に関わって 協同憲章学習会の準備、第8回東海交流フォーラムの準備
	臨時理事交流会	11/10/29	協同組合憲章学習会の準備、第8回東海交流フォーラムについて、 3. 11文集の作成について
	第3回	11/12/17	国際協同組合同年と協同組合憲章学習会の振り返り、 第8回東海交流フォーラムについて、協同組合大学の準備、 2012年度の準備、
	第4回	12/1/28	1. 第8回東海交流フォーラムの準備 2. 2012年度の準備 2011年度のまとめ、2012年度計画、2012年度役員改選に関わって
第5回	12/3/17	1. 第8回東海交流フォーラムの振り返り 2. 2011年度のまとめと2012年度計画について 2011年度のまとめ、2011年度収支、2012年度計画 2012年度予算、2012年度役員改選	

常任理事会は、2011年度、次の通り開催しました。

2010年度第10回11/4/19、第11回11/5/18、第12回11/6/21、2011年度第1回11/7/21、第2回11/8/18、第3回11/9/26、第4回11/10/20、第5回11/11/18、第6回11/12/5、第7回12/1/17、第8回12/2/16、第9回12/3/9、の計12回開催しました。

3. 会員組織

会員の異動は次の通りで、2011年度末の会員数は、正会員個人235人・団体16団体、賛助会員個人87人・団体2団体となりました。
(2012年3月20日現在)

	正会員		賛助会員	
	個人	団体	個人	団体
期首会員	236	17	80	2
加入	15	0	5	0
退会	10	1	4	0
移行	-6	0	6	0
期末会員	235	16	87	2

4. 法人としての行政への対応など

- ① 特定非営利活動促進法に基づき、2010年度事業報告書を愛知県に提出しました(2011/9/20)。
 - ② 2010年度決算にもとづき税務申告を行い、平成22年度分の納税を行いました。納税額は次の通りでした。

国税	法人税	0円	(課税対象となる事業所得への課税税率22%、赤字決算のため0)
地方税	県民税	20,000円	(法人税の5%+均等割2万円)
	事業税	0円	(所得金額の5%、赤字決算のため0)
	市民税	50,000円	(法人税の12.3%+均等割5万円)
	消費税	397,200円	(2007年度より、納税義務者となりました。)
- ※特定非営利活動法人ではありますが、税法上の収益事業により発生した所得については課税されます。

IV 2010年度決算報告

1. 決算の概要

会費収入が1,988万円(正会費168万円、賛助会費14万円、維持会費1,806万円)となり、対応する運営費、管理費で支出が 万円でした。

2011年度収支バランス

(単位 千円、端数切り捨てで表示しています)

収入の部		支出の部		収支差額
	前期繰越金			
経常収支	会費収入 (うち維持会費)	運営費 管理費		
	事業収入 (うち学びと気づき支援収入) (うち学習・研修事業収入)	事業費 (うち学びと気づき支援費) (うち学習・研修事業費)		
	その他収入			
	当期収入計	当期支出計		

2. 2010年度決算書

2010年度の貸借対照表・収支計算書・財産目録は、次の通りです。

2011年度貸借対照表

2011年度収支報告

2011年度財産目録

V 監査報告 (総会当日配布)

以上、2011年度事業報告、決算報告とします。

2012年5月 日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎 直巳 (コープぎふ理事長)
 専務理事 向井 忍 (コープあいち参与)
 常任理事 磯村 隆樹 (コープあいち常務理事)
 常任理事 小木曾 洋司 (中京大学現代社会学部准教授)
 常任理事 河原 洋之 (コープぎふ執行役員)
 常任理事 山下 隆之 (コープみえ執行役員)
 常任理事 仲田 伸輝 (社会福祉法人名南子どもの家前理事)
 理事 朝倉 美江 (金城学院大学現代文化学部教授)
 荒井 聡 (岐阜大学応用生物科学部教授)
 飯村 初美 (コープみえ理事)
 井関 道夫 (元愛知学泉大学教授)
 伊藤 佐記子 (コープぎふ組合員)
 伊藤 伸子 (コープぎふ理事)
 大谷 光一 (全国大学生協連合会 東海ブロック事務局長)
 岡田 祐成 (社会福祉法人なごや平和福社会理事・施設長)
 河合 智子 (コープぎふ理事)
 片桐 邑司 (JA愛知東前理事)
 斎藤 勲 (東海コープ事業連合商品安全検査センター顧問)
 白谷 隆子 (コープあいち理事)
 杉浦 玄光 (農業・農協問題研究所三重支部世話人)
 田邊 準也 (東海コープ事業連合顧問)
 中島 啓美 (コープみえ理事)
 成瀬 幸雄 (南医療生協専務理事)
 野田 輝己 (農業経営)
 八田 淳 (コープあいち理事)
 久永 直見 (愛知教育大学保健環境センター教授)
 平野 哲至 (会社コンサルタント)
 山口 直子 (コープあいち組合員)
 幸松 孝太郎 (関西学院大学 都市創造研究センター 客員研究員)
 若井 和則 (生協労連東海地連書記長)
 兼子 厚之 (研究センター事務局)
 橋本 吉広 (大学非常勤講師)
 事務局長 大島 三津夫 (研究センター事務局)

第2号議案 2012年度事業計画と予算決定の件

2013年度に向けた中期目標として掲げた2012年度の目標に、2011年度のまとめをすることで相談してきた課題から、2012年度の計画(案)を作成しました。パネルや地域ごとの取り組みについては、現在協議中のため空欄になっています。そこで検討されていることも含め、2012年度の計画について協議ください。

2012年度事業計画

1. 2012年度の目標

2011年度は3月11日の東日本大震災があり、その復興支援活動に各協同組合が奮闘し、協同の価値と協同組合の役割が改めて見直された年度となりました。一方で、TPP（環太平洋経済連携協定）について関係国との協議が始まり、消費税の引き上げが論議されるなど、私たちの暮らしに大きな影響を及ぼす政策検討がすすめられています。

地域と協同の研究センターでは、2011年度の取り組みの中で確認しあった協同と協同組合の価値について、国際協同組合年の取り組みとして、多くの協同組合、協同を基礎にする諸団体と一緒に確かめ合い、深め合う場づくりに、外部にもアピールしながら、取り組んでいきます。

また2011年度に追ってきたテーマ、例えば「原子力発電と私たちの暮らし」から今後のエネルギーのあり方がより具体的に描けるように考え合う場をつくっていく等、市民が求める課題に対し、積極的に考え合う場づくりに取り組んでいきます。

昨年の総会で確認した中期目標で、2012年度は下記のことを目標として確認しています。

- ①国際協同組合年を迎える年度として、多数の協同を基礎とする組織や協同組合の参加で、交流し、その価値を深め、役割を考え、あり方を探り合う場をつくります。
- ②地域から時々に地域と協同の研究センターに求められる役割を発揮する仕組みを探求していきます。またその具体化として研究センターとしての主催事業を探求します。
- ③協同と協同組合を支える人づくりの場として「協同の未来塾」の開講をめざしながら、必要とされる人づくりにつながる場を探求します。
- ④協同組合年の取り組みと「記念誌」の発行で、地域と協同の研究センターの成果の蓄積を発行物でまとめるようにし、より多くの方と共有し合えるようにします。

この年度目標が実現できるよう、下記のことに取り組めます。

- ①多くの協同組合、協同を基礎とする組織と一緒に協同組合を考え合い、アピールする催しを総会記念シンポジウムや第9回東海交流フォーラムの中で具体化しながら、多くの協同組合の取り組みをつなげていきます。
- ②会員（個人会員・団体会員の構成メンバー）の参加で、地域と協同の研究センターの会員であることのメリットが実感できる場づくりをすすめていきます。
- ③次年度開講できるように、「協同の未来塾」の企画委員会をつくり準備していきます。
- ④研究センターの発行物で、会員であることの利点を実感できる情報発信があることを目指し、編集委員会をつくり検討していきます。

II. 2012年度事業計画の構成と具体的な取り組み計画

1. 協同組合の理念・役割・あり方の探究

東海の協同組合とつながって、国際協同組合年にふさわしい催しを開催していきます。

生協の（未来の）あり方研究会

生協の（未来の）あり方研究会活動の最終年度として、各位の専門領域と立場から立論した共同研究の成果論集を2013年1月に発刊していきます。

総会記念シンポジウム

2012年度の総会記念シンポジウムは、国際協同組合年を協同組合と協同を基礎とする組織がつながって、社会的にもアピールする内容で開催します。

第9回東海交流フォーラム

第8回東海交流フォーラムで培った参加者全員でのよりよい暮らしを目指し協働する事の大切さを、さらに多くの方と共有し、参加したみんなで協同を広げていけるようにします。

2. 協同の主体づくり・担い手づくりと学びと気づきの支援

各生協での職員を中心とした学びと気づきの場づくり支援

2012年度は、学びと気づきの支援をすすめる生協をしぼりつつ、各生協のニーズに依拠して実践論的に、かつ実験的な試みの段階にも高次化して取り組んでいきます。

共同購入事業マイスターコース

各生協の現場事業所に、2人のマイスターを育成することを目標に、4年間の期間プロジェクトとして開催してきました。2012年度は、その最終年度としての成果をさらに生み出し、そして、今後も継続するか否かを各参加生協のニーズに従い、その結論を年度の早い段階で出して準備していきます。

組合員理事ゼミナールの開講

2010年度と2011年度の2年間において、各生協の組合員理事の全員が受講しました。2012年度においては、同年度の新任組合員理事を対象とした「組合員理事ゼミナール」の新しいあり方を、各生協の組合員理事と機関運営部局の方々に参加いただき「世話人会」で研究し合い、開発し、遂行していけるようにします。

協同の未来塾の準備

2010年度より協同と協同組合について学び合う場について相談してきました。2012年度、企画委員会で準備し、2013年度開講を目指します。

3. 協同で支える領域別テーマごとの交流・地域での交流

それぞれのパネルの場を継続しながら、研究センターを支える人と力を蓄え、今後について準備していきます。日常的な研究センター活動を支える場と、それを支えることができる財政の仕組みをつくっていきます。

食と農（食をささえる地域農業と食育）パネル

食事に付いて学び、伝統食を味わいながら、農の体験を通じてこれからの食と農のあり方について考えていきます。実際の農作業をみんなで楽しくやることも、検討しすすめていきます。また、TPPについての情報を把握し、その内容に付いてさらに学習をすすめられるようにしていきます。

地域福祉を支える市民協同 パネル

「地域福祉を支える市民協同」について、地域の実践を基にして、学びながら意見交流をしてきた成果を、報告集としてまとめます。あらためてテーマを掘り下げるため、座談会（世話人による）を行い、総括的なまとめもしていきます。並行して、世話人ひとり一人の問題意識などのレポートについて完成させていきます。

研究フォーラム職員の仕事を考える

共同購入事業における地域担当者の仕事を考えるため、4つの実践に取り組みます。①職員が組合員としっかりつながりあうための組合員アンケート、②「私のくらしの中の生協商品」をテーマに組合員がおしゃべりする会「職員の仕事を語る会」、③労働組合と一緒に、職員の仕事にどんなやりがいがあるかを考えあうこと、④共同購入に関わる職場のマネジメントのあり方探求。

環境（自然の環 人の輪）

当面は合同を基本に、各生協の環境活動の交流をしながらやっていきます。ぎふ、みえ、あいちが環境を考えるフィールドがいろいろあり、お互いに情報交流して、会員生協で環境活動をすすめている組合員の交流活動をすすめていくことを相談していきます。

三河地域懇談会

三河地域懇談会実行委員会で、今まで8回開催した懇談会の経験を生かし、秋ごろに第9回三河地域懇談会を開催します。三河地域の現状を知り、防災、減災の取り組みや、くらしのあり方について学び交流し、東北支援について引き続き私たちにできることを考えていきます。ホットな話題として東三河県庁がスタートしたことや、自治体との関係づくり、連携についても考えていきます。

三重のつどい

「地域」「協同」「つながり」の広がりや常念頭に置き、地域の問題点・課題を出し合う中で、第5回目の「三

重のつどい」を準備します。原発にたよらないエネルギー、地域社会、自治会、食育などのテーマで開催を検討します。コープみえの理事の皆さんとの懇談会を設けることも相談していきます。

岐阜地域懇談会

「岐阜のつどい」として、岐阜をもっと知ろう、つながろうと会員による岐阜地域の調査をすすめます。「第1回岐阜のつどい」は「あぼ兄ィの農小を訪ねて！」を4月18日に椈の湖農業小学校の見学・交流会を行います。「第2回岐阜のつどい」は、石徹白で取り組まれている小水力発電について見学することを夏頃に計画します。

尾張地域懇談会

尾張地域での懇談会の開催について

4. 会員による多様な研究センター活動の支援

地域と協同の研究センターを支える、会員の主体的・自主的な活動の支援継続と、そうした活動を広げるための仕組みを確立できるよう第3期研究奨励助成を検討します。

5. 協同に関わる情報の蓄積と社会的発信

2012国際協同組合年にふさわしい地域と協同の研究センターからの情報発信について、そのあり方を、会員参加で見直し、成果物の発行、社会的な発信の探究、研究センターの特徴を生かした研究誌づくりの検討をすすめていきます。

- ①研究センターNEWS、情報クリップ、ホームページのリニューアル
- ②研究誌の検討

6. 研究センターの組織づくり

パネル、地域懇談会等の参加を増やししながら、研究センターの情報発信の改善と国際協同組合年を契機とした協同組合の連携の中での取り組みを通じ地域と協同の研究センター会員のお誘いを広げていきましょう。

会員加入について、下記の目標を持ち、取り組んでいきます。

会員お誘い目標 個人（正 120人・賛助 20人） 団体（正 5団体）

会員の広がりの中で、財政を支える会員組織と活動づくりをすすめます。

3. 2012年度予算

第3号議案

2012年7月7日をもって、第7期役員（2010年7月～2012年7月）の任期が満了しますので、定款第16条に基づき通常総会において、第8期理事・監事を選出します。選出する役員定数は、定款第14条にもとづき理事35名、監事3名とします。役員任期は、2012年7月7日から2014年5月までの2年間です。各役員の出選区及び定数は、次の通りとします。

理事：三河地域 5名、尾張地域10名、岐阜地域 5名、三重地域 5名、全体枠10名 以上35名

監事：全体枠 3名

全体枠とは、県域を越えた連合組織所属者・研究センター運営担当者及び東海3県以外に在住する会員の出選枠です。

理事・監事の出選に当たり、役員選出規約第4条第2項にもとづき、立候補受付を公示します。理事・監事に立候補する方は、6月30日までに選出区を明らかにして、役員選出管理委員会に立候補の届け出を行ってください。

2012年通常総会役員選出管理委員会

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2011年度通常総会議事録

1. 日 時 2011年7月9日(土) 開会 10時30分 閉会 12時25分

2. 会 場 生協生活文化会館4階ホール

3. 出席者(議案採決時の出席数)

<内訳>

	出席者	実出席	書面表決	正会員数	出席率
個人正会員	174	58	116	232	75.0%
団体正会員	14	5	9	16	87.5%
	188	63	125	248	75.8%

4. 審議事項

- (1) 第1号議案 2010年度事業報告と決算承認の件
- (2) 第2号議案 2011年度事業計画と予算決定の件
- (3) 第3号議案 第二期中期目標の件

5. 議事経過の概略及び議決の結果

(1) 開会

定刻となり司会者の磯村隆樹常任理事が、総会への出席者が開会時点で180名(実出席56名、書面表決者124名)となり、7月9日現在の正会員248名(個人正会員232名、団体正会員16名)の過半数125名に達していることを報告し、定款29条に基づき、2011年度通常総会を開会することを宣言した。

(2) 議長選出及び議事録署名人の選任と書記の任命

司会者が議長の選出方法について諮り、理事会から推薦することにつき異議なく承認されたので、理事会が推薦した河合智子理事、白谷隆子理事を紹介し、満場一致をもってこれを承認し、本人も了解して議長の任についた。

議長が議事録署名人に中島啓美会員、柘植和子会員を提案し、異議なく選任された。つづいて議長は書記に研究センター事務局の伊藤小友美会員を任命した。

(3) 代表理事あいさつ

総会の開会にあたり、川崎直巳代表理事が、次のようなあいさつを行った。

おはようございます。暑い中、ご参加いただき、ありがとうございます。

総会を迎えるにあたって、去年の総会のことを思い出していました。総会は1年前ですが、その年は、3月に南医療生協の新しい病院ができ、生協の合併でコープあいちが誕生しました。そんなことを紹介し合い、いろんな分野で協同組合の取り組みが、東海の地域で大きくすすんでいることを確認し、「協同っていいかも？」を実感しながら、総会を迎えました。1年前を振り返り、協同組合の可能性と、期待を感じています。その一つは、東海3県で活動している協同組合とか、協同組合に思いを馳せる人たちの実践により、確信が生まれ、力になっているということです。もう一つは、担い手を育てていくことが大切と、組合員理事ゼミナールを開催し、働いているみなさんが一緒に勉強し合う共同購入事業マイスターコースを重ね、生協の(未来の)あり方研究会で実践家の皆さんに学ぶ等、協同組合について深めることができたということです。

そんなことを積み重ねている時、東日本大震災が発生し、私は二つのことを考えさせられました。一つは、私自身の気持ちとして、大切なものは何なのかということです。私は、昭和24年生まれです。経済発展、経済成長が当たり前で、それが中心の課題と、ずっと60年走り続けてきました、今回の震災で振り返ると、それで何をもちたして、何がつけられたのでしょうか。人間が大切にされているのでしょうか。継続的に社会が発展していくために大切なものがつけられたのでしょうか。もう一度根本的に考え直す必要があると痛感しています。二つ目は、日本の国のあり方、方向を問われたと感じています。国策として進められてきたことの問題点や課題が、問いただされていると思います。何のためにどういった国策が行われてきたか、真正面から受け止めて考えていきたいと思っています。

こうした二つのことを考えながら、私は協同組合の可能性や力を、今まで以上に考え、実践していく機会として、今日の総会や、これからの活動に期待をしたいと思います。

岐阜県の協同組合では、14年前から、JA・森連と一緒に、協同組合間提携を積極的に進めようとしてきました。来年の国際協同組合年を踏まえ、「協同組合を考えるつどい」を開催しました。2012国際協同組合年全国実行委員会の委員長内橋克人さんにご講演をいただき、大変重要な思索に富んだお話をさせていただきました。これからの世の中で大切なのは、利益共同体が中心になった世の中の仕組みでなく、使命共同体として協同組合が力を発揮し、経済や日本の企業を動かし、経済活動で積極的な役割を發揮していくことが大切ではないかと提起いただきました。これは、世の中全体がグローバル化し、大量の失業者を生んで大変な世の中になりましたが、それを大きく転換していくために協同組合が力を發揮することが大切であるとの問題提起であったと、私は受け止めました。

今日は、1年間の活動を振り返り、これから進める取り組みの方向を検討いただき、有意義な場になることを期待して、開会のあいさつにさせていただきます。

(4) 議案の審議及び結果

向井忍専務理事から、議案書に基づき第1号議案2010年度事業報告、第2号議案2011年度事業計画、第3号第二期中期目標の件について提案があり、大島事務局長から第1号議案の2010年度決算、第2号議案の2011年度予算について提案があった。また監事を代表して林麗子監事が監査報告書に基づき監査の報告をした。

次に理事会からの議案提案に基づき、会員からの質疑、意見発表が行われた。

八田淳会員：地域福祉をささえる市民協同のパネルの取り組みを紹介します。2010年度は、深く掘り下げることにしようと7回の世話人会を持ちました。鈴木清覚さんをお招きし、障害者権利条約の学習会に取り組みました。印象に残っていることは、パラダイムシフトです。障害者権利条約はまだまだ十分浸透していませんが画期的な内容です。今までの社会は、普通の人たちが基準になっており、普通でない人、障害者・高齢者・外国人労働者等、そういう人の救済で福祉が進んできました。これからは、普通でない人の社会が当たり前になるべきだと思います。今回の震災でも、震災に遭わなかった我々には手を差し伸べる義務があり、震災にあった人にはそれを受ける権利がある。ボランティア活動も、やってもらう時は大きな顔でやってもらう形が支配的な考えになるべきであると考えさせられました。私は、おみやげでイタリアのトマトソースをいただきました。点字がありました。向こうの商品には、賞味期限も点字があり、そういうことにコストをかける社会に、西欧ではなっています。どういう世の中になっていったらいいか考えるものにしていきたいと思っています。

樽松佐一会員：原発事故と生協の果たす役割に関わって、放射能汚染問題は、若いお母さんたちは本当に関心があり、生協ならではの活動に期待したいと思っています。コープふくしまの専務が言っていましたが、南相馬市で、皆さんが撤退し、スーパーも店を閉めました。逃げられない人がいて、生協の職員と大学生協の仲間の支援者が「がんばって南相馬」というキャンペーンをしてがんばっています。福島を支援することは、逃げるに逃げられない人がどんな状況で生活しているか、支援するということはどんな状況にあるかということを考えます。JAと協力して、農産物を買って欲しいと、生協が取り組んでいます。若いお母さん、小さい子がいる方は、心配ですので、生協がきちんとチェックして、基準を明確にして安全なものを確保できればと思います。震災で感じるのは、協同組合がその地域社会の中で、生協に入っていない人との関係で、その役割を發揮するかが大事だということです。地域社会の助け合いの拠点に、生協や協同組合がなれるよう、そういう分野を研究センターが展開されるとよいと思います。

佐藤尚子会員：私は、研究するってなんだろうと思います。わからないことを聞く学びだけでなく、研究を進めるセンターとして、はっきりさせるべきだと思います。生活の中で疑問があっても、解明されずに、忙しい女性は流

れてしまいます。そこで立ち止まり、疑問を自覚し、共に考える仲間をつのり、調査研究する、それが生協の一つの役割だったと思います。研究センターは生協の中の研究と、地域の中の活動をつなぎ、自覚的に進めるべきだと思います。理事会の中で、そういった協同活動を反映させるとか、事務局が動向を見極める力量を持つよう強化していくべきだと思います。地域と協同の研究センターも実りある年にしてほしいと思います。

山口直子会員：環境パネルの世話人会では、引き続き地域の情報交換を重視して、地域で学びの場を計画します。

2011年度は、東山の森に学ぶ企画に取り組みます。午前中は自然散策をして、里山の保全活動に取り組み、下草刈や倒木整理などをします。午後はオプション企画で東山公園の60分くらいの公園学習コースも予定します。家族で環境について考える機会にさせていただきたいと思います。また、食と農のパネルと合同で、放射能の問題、エネルギーの問題と、今のくらし見直しをテーマに地域と協同の研究センターにふさわしい学習会を計画します。また、三河地域懇談会は、秋頃に8回目を計画します。今年は震災をとおして日本の向かう方向、地域の課題と生協のあり方、人と人とのつながりを生かすネットワークのあり方、協同組合年などのいくつか問題意識を出し合って具体化していく相談をしています。

原勝行会員：自主研究会を続けています。研究助成を受け、2回目になります「おしゃべりパーティにかかわる研究」をしました。その前には「班」に関わる研究を、「くらしと協同の研究所」の助成で行いました。コープしまねの理事さんのグループが、同じような意味合いで、個の時代に班の役割、意味を考える研究をしてみえました。「意見交流できるといいね」と話をしました。継続して研究はしていきたいと思います。私たちの自主研究会では情報を持ち寄って、生協の関係など交流しています。アメリカの新自由主義のことを知り愕然としました。貧困政策がすすんでいます。TPPの問題も農業問題だけでなく、くらし全般の問題です。そういう中でのせめぎ合いの中に国際協同組合年があり、協同組合があると思います。そんな意味で、深めていく自主研究会を続けたいと思います。決算・予算にある会費収入で、維持会費は不自然ではないかと思います。監事のみなさんにも関わっていただき、どういう運営がいいか、研究していただけるとありがたいなと思います。

津坂賢一会員：今、ワーカーズコープセンター事業団にいます。2012年の国際協同組合年について、事業団では仕事起こしというのが大きなテーマになっています。事業団の出発点は、失業者が集まってできた協同組合ということです。実際に仕事起こしをする取り組みを考えおり、今回、千種、今池、大曾根で、失業者対策に職業訓練の仕組みがあり、講座を始めています。プログラムを通じて、仕事をつくるという計画で進めています。協同組合として地域との関係の話がありましたが、心強く思っています。力をあわせることは、協同組合の共通のテーマだと思います。生活支援事業を起こす相談をしています。

田中義二会員：昨年度は、食と農パネル・環境パネル合同でTPPを考える会を開催しました。TPPは震災にも関係があり、ますます問題になると思います。食と農のパネルより、「そば体験しませんか」という企画を考えています。自分でつくって食べるということは、どういう意味か、考えませんかという趣旨です。大抵はお金を出して買いますので、生産と消費が分離しています。そうでなく、自分でつくって食べる、育てて殺して食べるという体験をしませんかということです。9月に種を蒔いて、11月上旬に収穫します。

3月11日に震災があり、協同ということを考えさせられるようになりました。しかし震災の時に、絆、もやい、結という言葉は聞きましたが、協同ということばは聞きませんでした。やっていることは協同です。日本語になっていないのかと思いました。協同の協は、十に力三つで、十は心を表し、心を合わせて、力を合わせて、助け合っていくということです。心を合わせ、助け合って、物事を進める。いい言葉だと思います。震災以降考え直さなければいけないことがいっぱいあると思います。私は71歳ですが、世の中をつくってきた一人であり、このまま、次の世代に渡すことはできないと思います。未来が見える状況にし、子供や孫に引き継ぎたいと思います。協同ということに関わらせていただいて、これを最後の仕事にしたいと思っています。

発言を受け、向井忍専務理事より理事会としてのまとめが行われた。

向井忍専務理事：7人の方から意見いただきました。八田さんからは、今後の社会のあり方について、樽松さんからは放射能問題で生協はどう考えるか、山口さんからは、放射能原発問題、震災で日本の方向考える学習会も持つという紹介がありました。国際協同組合年は若者、女性や障害をお持ちの方の社会参加で、協同組合が役立つかが一つの切り口だと思います。協同組合はなんのためにあるのか。協同のあり方を大事にしていきたいと思います。

私も震災後は一人ひとりできることをやらないといけないと思います。地域で必要としている人たちに、生協にいる私は、何ができるか。地域における生協の役割はそういうことだと思います。組織や事業の形が先にあるのではなく、生協に関わっているものが地域にあることに向き合いながらつながる、地域での協同作業に参加しない

限り、協同は生まれてこないと思います。

研究助成は、再開したいと思いましたが、研究センターの財政ではできませんでした。他の助成も生かし、研究活動ができるように考えていきたいと思えます。皆さんがやっていることに光を当てられるようにして会員活動を支えて行きたいと思えます。

津坂さんから、失業者、仕事おこし、地域をどうつくっていくかという問題提起をいただきました。田中さんからは、そういうことをやるために、農協、地域、医療、大学生協、高齢者生協などの協同組合自身の協同の大きなテーマをいただきました。2012年が国際協同組合年となり、東海交流フォーラムでは多様な協同の組織の実践を一つにする場をつくりたいと思えます。来年の協同組合デーには、この地域の協同組合がどういう協同の場をもてるか、様々な協同組合が、どういう連携できるのか話し合えるようにしたいと思えます。

研究センター組織のあり方について、原さんから維持会費の取り扱いに関わっての意見がありました。主要な会員の各法人組織に対して、しっかり説明する、もっと活かす、そういう議論ができるよう、会費の実態にあった研究センターとして取り組みをしていきたいと思えます。

知恵、力、経験をあわせてやるのが地域と協同の研究センターですので、持ち寄っていただきみんなの活力になる方向ですすめたいと思えます。以上、今年の進め方についてのまとめにしたいと思えます。

以上をもって議長が討論を終え、採決に入ることを宣言した。

議長が第1号議案、第2号議案、第3号議案について挙手で採決を行い、第1号、第2号、第3号議案について過半数の賛成があり、提案が可決されたことを宣告した。採決結果は次の通りであった。

- 第1号議案 2010年度事業報告と決算承認の件 反対0 保留0 賛成185で承認
- 第2号議案 2011年度事業計画と予算決定の件 反対0 保留2 賛成183で決定
- 第3号議案 第二期中期目標の件 反対0 保留2 賛成183で決定

すべての議案の議決が終了したことを議長が宣言し、議長を退任した。司会の磯村隆樹常任理事が、通常総会の閉会を告げ、12時15分閉会した。

上記の議事を明確にするため、ここに本議事録を作成し、議長及び議事録署名人において、次に署名押印する。

2011年7月9日

特定非営利活動法人地域と協同の研究センター2011年度通常総会

議長 河合 智子 印

議長 白谷 隆子 印

議事録署名人 中島 啓美 印

議事録署名人 柘植 和子 印

研究センターニュース特別号

特集 **2012年度通常総会議案**

(総会開催日 2012年7月7日)

発行 特定非営利活動法人
地域と協同の研究センター
代表理事 川崎直巳

発行 2011年5月 日
〒464-0824
名古屋市千種区稲舟通1-39
電話 052-781-8280 Fax 052-781-8315